

東京都知事 石原慎太郎 様

食のコミュニケーション円卓会議

代表 市川まりこ

2012/10/16

朝日記事9月8日朝刊の「石原知事発言から」という記事についての質問書

私たちは、「食の問題についてより良いコミュニケーションを育みたい!」との思いから主婦、事業者、研究者、教育者、メディアや行政関係者など様々な立場のメンバーが、互いに学びあうという精神で集い、科学的根拠に基づく学びや体験、対話の中から得られた成果を社会へ伝える活動を進めている消費者団体「食のコミュニケーション円卓会議」<http://food-entaku.no.coocan.jp/>です。

先般、朝日記事9月8日朝刊の「石原知事発言から」という記事中に、環太平洋経済連携協定（TPP）や遺伝子組換え作物に関する都知事のご発言に、都民に誤解を与えかねない箇所がありましたので質問させていただきます。なお11月5日までにご回答頂きたく、お願い申し上げます。

1.「遺伝子組み換え商品は将来、人体にどのような影響を与えるかは分からない」とのご発言ですが、どの様な影響を危惧されていらっしゃるのでしょうか。

遺伝子組換え食品の安全性評価は、内閣府食品安全委員会が国際基準（Codex委員会のガイドライン）に沿って安全性審査／認可を行い、問題ないと評価された遺伝子組換え作物のみが、国内への輸入・利用が認められます。日本はこれら安全性審査が終了した遺伝子組換え作物を毎年1,700万トン（日本の米生産量の約2倍で、日本の穀物輸入量の約55%）輸入していると推定されており(1)、家畜飼料や食品（食用油、醤油、異性果糖など）の原料として利用しています(2)。

遺伝子組換え作物の輸入・利用は1996年から開始していますが、今まで健康被害は一度も報告されておられません。また過去には、東京都の独自の取組として遺伝子組換えダイズの長期給餌試験（動物試験）も実施していますが、この調査でも一切の悪影響は確認されませんでした(3)。

さらに、東京都健康安全研究センターでは、都民の安心のために遺伝子組換えダイズを長期間にわたって摂取した際の影響を調べる目的で、ラットを用い遺伝子組換えダイズの104週間投与試験を行い、問題ないと報告しています(3)。その上で、都知事自ら「遺伝子組み換え商品は将来、人体にどのような影響を与えるかは分からない」との発言は、科学的な安全性評価と、東京都が自ら行った試験結果に対する信頼性を否定する、非常に残念な発言と存じま

す。

都知事が、遺伝子組換え食品に関し、具体的に危惧されている内容がありましたら、その詳細を教えてください、お願いします。

(1) 一緒に考えよう 遺伝子組換え食品 <http://food-entaku.no.coocan.jp/gmo.htm>

(2) 日本学術会議シンポジウム「遺伝子組換え作物とその利用に向けて」

科学技術と社会－遺伝子組換え作物を素材とした検討－三石誠司（宮城大学食産業学部）

<http://www.scj.go.jp/ja/event/pdf/mituisi.pdf>

<http://www.scj.go.jp/ja/event/2010.html>

(3) 坂本ら 遺伝子組換え大豆のF344ラットによる104週間摂取試験

食衛誌 49(4):272-282

連絡先：東京都健康安全研究センター環境保険部

2.「東京都の遺伝子組み換え食品のステッカーを米国が外せと行って来ている」とのご発言について

遺伝子組換え食品の表示は、国民の知る権利を守るために「JAS法」及び「食品衛生法」で定められています。東京都も独自のラベルを用いているとのことですが、朝日新聞で紹介されている「東京都の遺伝子組み換え食品のステッカーを米国が外せと行って来ている」との知事のご発言に関して、実際にその様な要望や打診が、米国政府から東京都にあったのか否かもしあったのならその詳細をお知らせいただきたく、お願い申し上げます。

「食のコミュニケーション円卓会議」の会員の多くが東京都民で、私達は石原都知事の行動力やリーダーシップに大きな期待を寄せております。私達の情報提供が都政、特に食品行政に貢献できることを期待しております。

なお、本文は「食のコミュニケーション円卓会議」のホームページ(<http://food-entaku.no.coocan.jp/>)において掲載予定でありますので、その旨ご了承いただけますようお願い申し上げます。

以上